

延命策における課題等

延命策	課題等
クリーンセンターでの鉄分回収	・ 東北部クリーンセンターのみでの実施となる。平成33年度からの事業実施を計画しているが、セメント資源化との組み合わせを考慮すると、工期短縮によりできるだけ早期の実施を検討する必要がある。 ・ くず鉄の相場により、回収した鉄分の売却が滞ると、延命効果が発揮できない。
埋立処分地での鉄分回収（施設）	・ 既存施設の除却時期が未定のため、事業着手時期が確定できない。 ・ 高い鉄分回収率、高い灰の除去率が、期待できる。 ・ くず鉄の相場により、回収した鉄分の売却が滞ると、延命効果が発揮できない。
埋立処分地での鉄分回収（重機）	・ 整備工事等が不要のため、早期に取組み可能である。 ・ 屋外作業のため、完全な粉じん対策は不可能。また、高い鉄分回収率と灰の除去率は望めない。 ・ 重機の操作、運搬及び燃料供給等に多くの人員が必要。
焼却灰のセメント資源化	・ 整備工事等が不要のため、早期に取組み可能である。 ・ 業界としては、事業拡大の方向だが、セメントの需要等により、延命策が中断する可能性がある。 ・ ばいじんの処理やコスト削減の可能性に向けて、塩素除去の効率を大きく上げる検討が必要。
焼却灰の溶融資源化	・ 整備工事等が不要のため、早期に取組み可能である。また、ばいじんの処理も委託できる。 ・ 資源の有効活用の面からは理想的だが、セメント資源処理委託より処理費用が高い。 ・ 事業者の意向等により、延命策が中断する可能性がある。事業者の数が少ない。
焼却灰溶融施設の建設	・ 既存施設の除却時期が未定のため、事業着手時期が確定できない。 ・ コストは高いが、延命効果は非常に高い。
ガス化溶融施設の建設	・ 既存クリーンセンターの代替施設となるため、早くとも平成48年度からの実施となる。 ・ ストーカ炉と比較すると高コストだが、延命効果は高い。コスト低減の研究も進んでおり、注視が必要。
ばいじん発生量の削減	・ 既存設備の簡易な改造で実施できるので、すぐに取組み可能である。排ガス等への影響の確認が必要。 ・ 費用対効果は高いが、延命効果は小さい。
埋立処分地の再生（高密度化埋立工法）	・ 埋立廃棄物層の安定化に与える影響については不明であるため、慎重な検討が必要である。 ・ 導入時期までに時間があるため、他の工法や新たな技術開発を含めて、長期に渡る調査も重要である。
埋立処分地の再生（嵩上げ工法）	・ 費用対効果が高い。 ・ 導入に向けた、長期の埋立管理計画が必要。跡地利用計画と合せた検討が必要である。